

将来有用な人材の育成に向けて —教育部の取組み—

教 育 部

1 はじめに

我が国を取り巻く厳しい安全保障環境下において、弾道ミサイル攻撃、サイバー攻撃等への対応等あらゆる分野で高度な能力を有する人材が求められている。このため、我が国を防衛するための防衛力を最大限に機能させるためには、それを支える人的基盤をより充実・強化させることが必要不可欠であり、教育は益々その重要度を増している。

平成 30 年 3 月 27 日、陸上自衛隊の大改革の一つとして、教育、研究開発及び練成訓練のスパイラルを循環させ「強靭な陸上自衛隊の創造」のため、陸上自衛隊の「改革のエンジン」として陸上自衛隊教育訓練研究本部（以下「教育訓練研究本部」という。）が新編された。その中で教育部は、陸上自衛隊の部隊の上級指揮官又は上級幕僚として、今の任務を確実に遂行でき、将来の我が国の防衛の中核を担う高い志を持った伸展性ある、将来有用な人材を選抜・育成するという重要な役割を担っている。改革のエンジンの一部を担うためには、教育訓練研究本部内における各部との密接な連携が必要となる。総合企画部を中心とした各部の総合一体化のもと、例えば、研究部が研究する新たな要領や部隊実験の成果を各課程教育に積極的に取り入れるとともに、訓練評価部が所掌する日米共同指揮所演習に積極的に教官を参加させたり、教官による知見を教訓業務に活用させ、更にその成果を教育に迅速に反映している。

教育部は、陸上自衛隊幹部学校（以下「幹部学校」という。）教育部を母体として新編されたが、その役割・業務については大きく深化・拡大しており、似て非なるものである。以下、現教育部の主要業務や担任する課程、取り組むべき課題について紹介する。

2 教育部の主要業務

(1) 教育業務

教育部は、「幹部高級課程」、「指揮幕僚課程」、「技術高級課程」及び「最先任上級曹長（師団等以上）課程」の 4 つの一般課程並びに連隊長、群長等に上番を予定している者に対し「上級幹部集合教育」を担任し、学生に直接教育をしている。各課程の詳細は後述するが、自

衛隊の幹部・准曹の中でも多くの候補者の中から試験選抜もしくは選考で選ばれた高い素養と志を持った学生に対し教育を実施している。

各課程の特性や自衛隊の機能に応じた教育を行うため、専門性の高い知見を持った教官や陸上幕僚監部の担当者による教育、陸上幕僚長をはじめ多くの将官の訓話により薰陶を受けるとともに、自衛隊以外の高徳、専門的な有識者を招へいして教育を行っている。

また、各部の知見を取り込んで教育カリキュラムを作成するとともに、専門性ある研究員、訓練評価員による講義や戦術教育における運用解析支援など、教育訓練研究本部の全力をもって人材育成を図っているところである。

(2) 選抜試験業務

教育部は、指揮幕僚課程及び技術高級課程学生の選抜試験並びに各職種学校の幹部特修課程学生選抜試験の管理を担任している。選抜試験は優秀な人材を確保するためのいわば入口であり、人材育成目標を踏まえた試験問題の作成及び人物の選考を行っている。

(3) 知的基盤の構築

戦術想定や教官・学生が作成した研究論文等を蓄積し、インターネットを活用して積極的に情報発信をしている。

(4) 諸外国との交流

一部の課程教育において、米国をはじめ多くの諸外国からの留学生を受入れ、相互理解や日本人学生の国際感覚を醸成させている。

3 教育部が担う一般課程教育等

(1) 幹部高級課程 (AGS:Advanced Command and General Staff Course)

ア 概 要

平成31年1月現在、第76期が入校中の幹部高級課程は、大隊長等の指揮官、陸上幕僚監部、陸上総隊、方面総監部等の司令部の幕僚を経験した要員が選考により入校し、戦略を主体とした教育により陸上自衛隊の中核要員を養成する最終共通教育課程であり、卒業後は連・群長等の指揮官、統合幕僚監部、陸上幕僚監部、陸上総隊司令部の幕僚等重要なポストへ補職される。

本課程修了後は、同じ目黒に所在する統合幕僚学校による統合高

級課程（約 5 カ月）に連接され、陸海空の学生がそれぞれの課程で学んだ専門的知見を相乗効果で高め合い、高いレベルの統合運用に関する知識及び技能を効果的に修得している。

イ 特 色

陸上防衛戦略研究、統率論研究及び戦略論文を重視課目とし、研究を中心として、主体的に思考させる教育を実施している。

(2) 指揮幕僚課程 (CGS : Command and General Staff Course)

ア 概 要

平成 31 年 1 月現在、第 63 期及び第 64 期が入校中の本課程は、共通の試験により選抜された要員が入校し、卒業後は上級の指揮官及び幕僚として活躍する要員を育成するとともに伸展性を促す課程である。

以前は 2 年間の教育であったが、陸上幕僚監部の人事施策の見直しや教育内容の検討を経て、平成 28 年度入校学生から 1 年 4 か月に短縮された。

イ 特 色

本課程においては、戦術教育をより現実的かつ幅広く教育するため、“作戦運用”教育を実施している。一般的に初学者に対する戦術教育は、原理原則等基本的な考え方を学ぶため、複雑な要素を排し作戦環境を単純化させた教育である。一方で、本課程で学ぶ作戦運用教育は、戦いの原則、要則等を各種作戦に適用し、現実的な作戦環境等に応用した教育により、学生の思考の幅と深さを拡大し明確な答えのない状況においても、自ら答えを導くことができる幹部自衛官の養成を図っている。

(3) 技術高級課程 (TAC : Technical Administration Course)

ア 概 要

平成 30 年 4 月から第 46 期が入校中の本課程は、修士等を保有する技術系幹部が共通の試験により選抜され入校し、卒業後は技術の研究開発等の中核として活躍する要員を養成するとともに伸展性を促す課程である。

イ 特 色

AI や ICT 等技術の進化は目まぐるしく、また宇宙・サイバー空間、電磁波等領域的にも拡大している現在の状況において、その技術特に革新的な軍事技術の優越が勝敗に大きな影響を与えることは自明である。このため、自衛隊の運用から必要な技術・研究開発を考察させるだけでなく、将来の技術動向等の分析に基づき、技術から要領を創造させる等運用と技術を吻合させるような教育を重視している。

(4) 最先任上級曹長（師団等以上）課程（CSM : Command Sergeant Major Course）

ア 概 要

本課程は、上級曹長制度の中でも最も上位となる師団等以上の最先任上級曹長を育成する重要な位置付けであり、平成 29 年度に集合教育から一般課程教育化された。

上級曹長制度とは、第一線部隊指揮官をより効果的に補佐するとともに陸曹が曹士の育成に積極的に取り組む体制を構築するため、各種検討・試行を経て誕生した制度である。この狙いを踏まえ、指揮官を支え、かつ全国の准曹士の模範かつ目標となる人材の育成を図っている。

イ 特 色

実戦経験のある米軍や同等の制度を有する海空自を研修し、そのノウハウや課題について学習させている。また、職務を分析させ、それぞれの部隊の特性を踏まえて部隊長を補佐するために“具体的に何をなすべきか”、目標を考えさせ、職務に対する覚悟を確立させる教育を重視している。

4 今後の課題や取組み

(1) 教育内容の見直し

変遷する戦い方に適応するため、教育内容についても常に見直し、旧態依然に陥らないよう注意しなければならない。このため、現代戦及び将来の戦いの様相を見据え、陸・海・空・宇宙・サイバー・電磁波各領域における要領及び領域横断作戦、「多次元統合防衛力」の構築に資する要素を積極的に教育に取り込むことが必要である。

(2) 日米共同に関する教育の充実

日米共同の更なる強化は、我が国を取り巻く安全保障環境を改善する上で極めて重要である。日米共同作戦及び増加する日米共同訓練において共同連携をより効果的に行うため、米軍の組織や戦い方、指揮幕僚活動要領を教育へ取り込んでいく必要がある。

現在、戦術教育において米軍の指揮幕僚活動要領を一部取込んでいるが、今後は教範等の改訂に合わせ教育内容を拡充していく。

(3) 国民の信頼を増進するための教育

昨今の情報管理の重要性を踏まえ、文書管理、情報公開業務等のコンプライアンスに係る教育の充実や精神教育等による隊員の資質を向上させる必要がある。

現在、学生が将来の上級部隊指揮官・幕僚として遵法精神及び健全性を高め得るよう教育要領を確立している。

(4) 教育手法の進化・改善

技術や社会環境が急激に変化し、予測が困難で過去に例がない状況下においては、柔軟な発想と強い信念・意思を持って自ら答えを導かなければならぬ。このような資質を教育により付与するには、常に教育手法の進化・改善に取組むことが必要である。

現在、学生の主体的・能動的な研究や対話・討議を重視し、戦術教育等において ICT(Information and Communication Technology)の積極的な活用・駆使を推進しているが、今後は更なる拡充をしていく。

5 おわりに

学生が修学に専念できる充実した環境を我々は提供していく。しかしながら長期部隊を離れることにより部隊感覚を忘れるることは厳に戒めなければならない。アカデミックで自由闊達な環境と、訓練、防衛任務や災害派遣等全国、世界で汗を流し活躍する部隊隊員に思いを馳せ、今の任務を確實に遂行でき、かつ、将来の陸上自衛隊の中核を担う将来有用な人材を育成するため、引き続き全身全霊をもって取り組む所存である。